

有識者議員懇談会 議事概要

- 日 時 平成26年7月10日（木）10：00～10：22
- 場 所 中央合同庁舎4号館4階共用第2特別会議室
- 出席者 久間議員、原山議員、内山田議員、小谷議員、橋本議員、大西議員
阪本内閣府審議官、山岸審議官

○議事概要

○原山議員 本日の議題は1つ、「研究開発の事務及び事業に関する事項に係る評価等の指針の案」についてと「再生医療の実現化プロジェクト」の事後評価結果について、早速事務局の方から説明願います。

〈「研究開発の事務及び事業に関する事項に係る評価等の指針の案」について内閣府 井上企画官より説明〉

○原山議員 本件に関して、かなり時間をかけて詰めてきて、ここに至るということでございます。

この後の作業としては本会議に上げていくということで、最終バージョンということで御覧いただければと思います。

コメント、ご意見、ご質問などございましたら、よろしく願います。

○橋本議員 前回申し上げて多少反映していただいていると思いますが、今回の我々の作った総合戦略の中でも、公的研究機関は橋渡し機能という、アカデミアと産業界の間に立っての橋渡しが1つの大きな研究活動であり、研究開発法人の重要なミッションだということを位置付けた訳なので、そのことをもう少し前面に出るようにしていただきたい。例えば最初に御説明いただいた1番目の資料だと、2ページ目の最初の丸に「橋渡し」という言葉を出してありますが、逆に言うと、ここしかないですね。せっかく今回我々も総合戦略の中で随分書き込んだ訳なので、そこが明確になるような書き方をもうちょっと工夫できないのかなと思ったのですが、今そういう意味では本文のどこに入っているのですか。簡単に説明していただい

ますか。

○井上企画官 本文の11ページを御覧いただけますでしょうか。「(c)」の1つ上の「なお」から始まる段落でございます。「なお、革新的技術シーズを事業化へ繋ぐ応用研究や成果の実用化などの橋渡しに係る評価指標・モニタリング指標としては、民間企業等からの資金獲得や人材の流動化の状況、提供されたサービスの質など」、こう書いているところが本文に関係する部分でございます。

また、別添の内容の中では、別添の41ページに研究開発の特性を踏まえて適切な評価軸を設定すべきといったことの評価軸の例示を示してございます。その中で、43ページの下の方から「政策的観点からの評価軸の例」といった形で、そこに1つ目の丸で「橋渡し」といったところ、それ以外にもベンチャー企業、中小・中堅企業等と連携協力、その他機関連携、分野融合、あるいは人材流動化、知財獲得、こういった観点について例示的にお示しをしています。

また、研究開発成果の最大化とか、特性、類型に関する記述についても関連する内容を例示しているということでございます。

本指針に関しましては、基本的には二十幾つある国立研究開発法人に共通する目標策定なり評価のルールを定めるものであって、ある意味政策的コンテンツに対応する内容というのは別途政策戦略があつて、それらがセットとなつて全体として機能させるといった観点であるものなので、ある意味共通的・汎用的なルールを示すことが第一義と考えております。本文の11ページにあります通り、国立研究開発法人において重要であるといったことについては、こういった形で特記するという形で事務局としては作成をさせていただいたという趣旨でございます。

○橋本議員 11ページには確かにクリアにそう書いていただいております、ここを読めば、その通りだと思います。

ただ、今回随分議論もしましたけれども、橋渡し機能の評価指標として産業界からの資金獲得というのが1つの非常に重要な指針になるということを書きいただいている訳です。そこは今まであまり出てこなかった視点だと思いますので、この概要の中にそういうのがどこか例示として入る場所はないですか。

おっしゃるようにはこれは全ての独法機関に共通することではないです。ただ、独法の機関の1つの重要な役割として橋渡し機能が位置付けられており、その評価手法としてこうだということはやっているの、全部に共通することではないけれども、極めて重要な視点であります。概要の中でもそれがわかるようになると大変いいかなと思ったので、検討していただければ

ばと思います。

○井上企画官 適切な評価手法、あるいは評価軸の選択といったところの例示として、まさに重要な内容として少し芽出しができないかといった観点で検討させていただきます。

○原山議員 他に何もなければ、この形で、また次のステップに進むということでご承認いただきます。ありがとうございました。

続きまして、「再生医療の実現化プロジェクト」の事後評価結果について事務局からお願いいたします。

〈「再生医療の実現化プロジェクト」の事後評価結果について内閣府 井上企画官より説明〉

○原山議員 本件も事後評価という形で、これを終了した訳であり、これもまた本会議の方に上げていくということでございます。ご質問、コメントございましたらお願いいたします。

10年間という長いプロジェクトで、その中でドラスティックに中身も変わってきたし、環境も変わったという、その中での評価はなかなか難しいところだったのですが。

よろしいでしょうか。ご承認いただければ、この形でもってファイナルとさせていただきます。

では、本日の有識者議員懇談会、これにて終了させていただきます。ありがとうございました。